川西町フレンドリープラザ
since1994
劇場・川西町立図書館・遅筆堂文庫

PLA's

2021年 秋 No.73

https://www.kawanishi-fplaza.com

特集
川西町で生まれた朗読倶楽部「星座」
結成から3年　その歩みとこれから

展示
井上ひさし展示室《企画展》
「あのとき　この人と　こんな話」展

Waku Waku エッセイ
学生と読む100年前の詩の雑誌　岡 英里奈

《コラム》
私のお気に入り ～My favorite things～

きらめく個性と朗読のおもしろさ
～共に舞台をつくる歩み～

経験がないこと、それも一つの個性

「みなさん今日も元気にいきましょう」

講師野々下孝さんのかけ声で、稽古が始まります。「星座」の公演スタイルはリーディング公演。リーディングとは、一人ひとりが台本を手にした状態で舞台上を動き、セリフを話すという演劇に近い表現形式です。月2回の稽古は、笑顔にあふれ、舞台上からは明るい声が響いてきます。しかし、台本を手にセリフを読むときはみな真剣な表情に。

朗読倶楽部「星座」は、2018年9月に誕生。現在メンバーは、山形県内各地から通う小学生から70代までの19人。演劇や朗読が未経験というメンバーも数多く在籍しております。年齢も経歴も異なる者が同じ舞台に立ち、ともに舞台をつくるという目標を目指すことで、自然とコミュニケーションが生まれます。

発声、動作や表情、舞台上に表れる一つひとつがその人の持ち味。ときには図々しいくらいがちょうどいいことも。誰でも活躍できる舞台が「星座」にはあります。

繋がる人の輪 ～一般参加者との共演～

2020年10月公演の井上ひさし作『水の手紙』では、公募で集まった13人の一般参加者を含む総勢30人のメンバーが舞台に立ちました。世代や性別の違い、経験の有無が混じりあい、全体の表現の幅が広がりました。

2021年7月には、プラザの新しい試みとして、『プラザ朗読まつり2021・夏』を開催。運営は、講師の野々下孝さんが代表を務める仙台シアターラボの全面協力のもと、2日間の公演を挙行しました。

「星座」15組、一般参加者10組の個人・グループが、自作の詩や小説、絵本、紙芝居などを朗読。ホールステージ、ロビーと会場ごとに異なる場の雰囲気と響きの違い、参加者の個性が味わいを深くしました。

一人ひとりの可能性を伸ばす 指導と演出

講師の野々下さんは仙台市を拠点に、数々の舞台公演を行い、アウトリーチ・教育普及事業、俳優の育成にも取り組まれています。

舞台『十二人の怒れる男』のプラザ出演がご縁で、発足時から講師として指導と演出をお願いしています。

経験に裏打ちされた演出は、大胆かつ緻密。両極端の要素を舞台に落とし込み、一人ひとりのメンバーの個性・特徴を最大限に活かします。これまで「星座」は井上ひさし作『頭痛肩こり樋口一葉』や『きらめく星座』、宮沢賢治作『銀河鉄道の夜』など、幅広い作品をプラザで上演してきました。これからは、井上作品のみならず、幅広い作品へ取り組んでいきます。

朗読に興味のある方、プラザの舞台に立ってみませんか

結成から3年がたち、参加者はその歩みの中で『朗読』という表現の楽しさや奥深さを経験しています。本気で楽しんでいるメンバーに対し「情熱的でかっこいい」という声も寄せられています。この小さな町だからこそできる実験的な朗読の取り組み。生の舞台だからこそ感じられる味わいを、プラザに来て、ぜひ体感してみてください。朗読や舞台に少しでも興味のある方、経験・未経験は問いません。「星座」のドアをたたいてみてください。いつでもお待ちしております。あなたの好きな物語を、声にのせてみませんか。（米野）

野々下 孝さんインタビュー

人間としての魅力が舞台にのる

Q1 「星座」設立から3年がたちました。これまでを振り返っていかがですか。

年齢も、朗読に対する距離感も様々なメンバーがいる中、台本を読むことで、皆さんが人生で獲得してきた人間としての魅力が舞台にのるチームになってきています。

Q2 「星座」には幅広い年齢層のメンバーがいます。稽古では、どのような点を大切にされていますか。

日常生活ではネガティブにとってしまうことが、その人の魅力として伝わるような、価値観の転倒が起こりやすいのが朗読です。その人の出ているところも引っ込んでいるところも魅力として舞台にのせられるような枠組みを作るように心がけています。

Q3 また、星座のみなさんはどのような方たちですか？

生活や生きてきた時間が、演技に色濃く感じられるメンバーです。メンバー同士の繋がり方や関係の取り方も、その人独自のやり方で行っているので、千差万別のコミュニケーションの仕方そのものが魅力なメンバーです。

Q4 朗読・朗読劇のおもしろさとは

演技者とセリフはまるで演技者が生み出しているように感じられやすく、朗読者と文章はあくまで朗読者が喋っているようには見えません。朗読者と文章の距離に、お客様の想像力が入る隙間があり、それこそ朗読劇の面白さだと思っています。

Q5 これからの「星座」について、方向性や挑戦したいことをお聞かせください。

作品のクオリティーを目指すというよりも、メンバー一人一人が幸福でいられるような団体として、お客様に見守っていただけたらと思っています。そして、メンバー各自が、プロデュースやスタッフ、俳優など、様々な朗読劇の楽しみ方を背伸びせずに行えるような企画に今後も挑戦していきたいと思います。

野々下　孝（ののした たかし）

仙台シアターラボ代表
俳優・演出家

大分県佐伯市出身。仙台シアターラボ代表・俳優・演出家。大学卒業後、劇団山の手事情社に入団。東西の古典作品を世界各地で上演。2009年に拠点を仙台に移し、2010年に仙台シアターラボを設立。シーンを、抽象的な関連性によって連鎖させ、ある印象を作りだすスタイルは、「演劇の暴走」と称される。2016年より ARCT 代表。平成25年度宮城県芸術選奨新人賞受賞。演劇を抽象化する作業と身体能力には定評がある。
2018年9月から川西町フレンドリープラザ附属演劇学校 朗読倶楽部「星座」講師。

星座メンバーに聞いてみた!!

あんなコト！ こんなコト！

- Q1. 朗読倶楽部「星座」に入った理由は？ また、「星座」の活動でよいと思うことは？
- Q2. 朗読の"おもしろさ"とは？
- Q3. これから、どんな作品を読んでみたい？
- Q4. 好きな俳優、目標の俳優は？

渡辺 明（米沢市）

Q1 老若男女と出会い、口を動かすため。惚けを先送りする可能性があるかも。

Q2 作家の文字が、私の肉体を通して他者に伝わる。

Q3 安部公房

Q4 山崎努

椎雫 結壬（鮭川村）

Q1 フレンドリープラザや、他地区の図書館や小学校等での朗読公演もあり、とても楽しいです。星座のメンバーは個性あふれる魅力的な方ばかり。いつも笑いあふれる現場です。

Q2 何よりも、手に本（台本）があるという安心感は半端ないです（笑）

Q3 星座の公演における、作品チョイスも魅力的です。

Q4 好きな俳優さん、たくさんいます(笑)

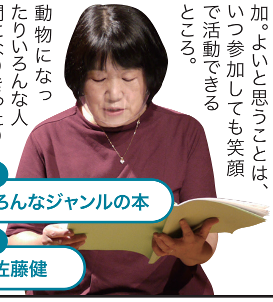
鶴　英里子（天童市）

Q1 今まで朗読の舞台に立ったことがなかったので経験してみたかった。「星座」は読むだけでなく動きもあり、新しい発見があって楽しいのが良いところです。

Q2 「朗読」は声にだして読むことで、情景などが映像としてどんどん浮かんでくるところがおもしろいです。

Q3 クスッと笑える物語や心にグッとくる作品

Q4 吉永小百合 坂東玉三郎



板坂 佳奈江（河北町）

Q1 絵本や物語を声に出して読むことが好きだったので、退職を機に参加。よいと思うことは、いつ参加しても笑顔で活動できるところ。

Q2 動物になったりいろんな人間になりきったりできるところ。子どもたちが、きらきらした目でおもしろかった！なあんて反応してくれると嬉しくなります。

Q3 いろんなジャンルの本

Q4 佐藤健

髙橋 英夫（米沢市）

Q1 プロの演出家の指導が受けられ、定期的に発表の機会が企画される。

Q2 朗読は「言葉の演技」により、聞く人の想像力を掻き立てるものだと思います。いかに豊かにイメージを伝えられるか、というところですね。

Q3 大関松三郎詩集「山芋」

Q4 西田敏行

金子 聡子(川西町)

Q1 演劇は難しいけれども、本を持って読む朗読ならできるかもしれない、と思ったから。メンバーの個性を、野々下さんがそれぞれに引き出してくださって、可能性を広げていただいている。

Q2 声に出して読むと、文章が立体的に浮かび上がってくるように感じる。「星座」の「朗読劇」には動きも加わり、より表現が豊かになるところがとても楽しい。

Q3 怪談、時代物

Q4 白石加代子

高瀬 葉月(川西町)

Q1 声優の朗読を聴くことが好きで、自分でも挑戦してみたいと思い参加しました。

Q2 聴き手側の「想像できる余白」が演劇よりも広いところが魅力のひとつ。読み手側としては、人間・動物・植物・物体・目に見えない何かなど、「何にでもなれる」ところ。

Q3 自分の日常に近い作品

Q4 江口のりこ　安藤サクラ　榎木淳弥(声優)

舟山 京子(飯豊町)

Q1 朗読だけでなく動きを入れて朗読劇にするところ。

Q2 聞いてくれる人に朗読で伝えられること。

Q4 どの年代の人でも楽しめる作品

Q4 朗読を聞いて心に残る読み方をする人(名前はわかりません)

伊藤 直美(川西町)

Q1 地元の人間として、好きなことで地元に貢献したい。参加者が小学生から年配の方までいること。

Q2 本を持つ安心感(笑)と、本を持ってのむずかしさ、それと集団でみせるおもしろさ。

Q3 江戸川乱歩

Q4 藤原竜也　大竹しのぶ

小松 由芽(高畠町)

Q1 「水の手紙」に参加して、緊張したけど楽しかったので、続けてやってみたいと思った。さまざまな年代の方々と交流できること。

Q2 本を読むときにくふうすると、おもしろくなったり、かなしくなったり、作品がますますおもしろくなるところです。

Q3 ユーモアのある作品

Q4 松たかこ

横澤 朋香(長井市)

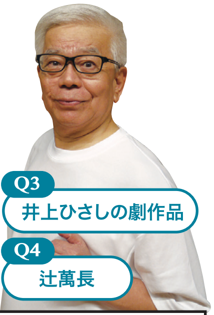
Q1 古川さんに誘われて。舞台が忘れられなかったので。
- 制約がなく伸び伸び
- 互いを尊重しつつ共に精進
- 未知への気づき
- 良い先生

Q2 感情移入

Q3 知らない作品

Q4 寺島しのぶ　長瀬智也　町田啓太

古川 孝(南陽市)



Q1 朗読そのものが好きだから入った。野々下先生の指導がよい。

Q2 名作に直に触れられるおもしろさ。

Q3 井上ひさしの劇作品

Q4 辻萬長

竹田 陽子(白鷹町)

Q1 高校で演劇部をやっていたこともあり「星座」の活動に興味があった。年齢関係なく、楽しく活動できるし交流できること。日常から離れて想像を膨らませて楽しむことができる。

Q2 同じ本でも、読み手によりイメージを好きに膨らませられること。

Q3 星新一　ルイス・キャロル　トーベ・ヤンソン　出久根達郎

Q4 高畑充希

山内 美穂(南陽市)

Q1 学生のころから朗読やナレーションに興味があった。NHKドラマ10「この声をきみに」を観て、「朗読」がしたいと思い、星座公演を観て「今からでも遅くない。」と強く魅かれたから。

Q2 年齢や職業、経験等関係なくチャレンジできること。

Q3 井上作品に限らず、チャレンジしてみたい。

Q4 天海祐希　桑子真帆　麻生久美子　竹之内豊　堤真一

潟湊 やゑ子(米沢市)

Q1 朗読のジャンルの経験がまだほとんどなかったので興味があった。朗読の枠を超えた自由なスタイルでやれること。

Q2 演劇よりもさらなる表現力が試されると思う。イントネーションや読み方、表情の豊かさなどをより多く要求されるところに魅力を感じる。

Q3 宮沢賢治

Q4 松たかこ

古川 史子(南陽市)

Q1 声を出して表現するなんて、自分には絶対無理と思っていましたが、挑戦してみたいと思っていました。参加できるだけで楽しいです。

Q2 読み方や、動きを加えることで全く違ったものになる瞬間がおもしろい。

Q4 奈良岡朋子

清野 順子(米沢市)

Q1 みんなが同じ思いで取り組めるところが良い。

Q2 表現力の向上

春川 富美代(米沢市)

Q1 表現できる場所を提供してくださるので。色々な方と知り合い、共に舞台をつくれること。

Q2 紙に書いてある文字が、朗読または朗読劇になることで、登場人物が立ち上がって、生き生きと動き出すおもしろさ。

Q3 色々挑戦してみたい

Q4 朗読なら竹下景子、演劇なら白石加代子

井上ひさし展示室

企画展「あのときこの人とこんな話」展

【展示】開催中～2021年11月7日(日)まで

井上ひさしさんは、雑誌や新聞等の企画で多方面の方々と対談を行っています。その数延べ400回、文学関係者はもちろん、スポーツ界・芸能界・政界など200人を超す方々です。その中から今回は意外な人物との対談に焦点を当てて紹介しています。作詞家の阿木燿子さん、女優の竹下景子さん、藤原紀香さん、野球の長嶋茂雄さん、イラストレーターの和田誠さん。

1981年の長嶋茂雄さんとの対談は、戦前の少年たちの草野球の話に盛り上がり、「いま『下駄の上の卵』を読んでいます」という長嶋さんに、アンチ巨人ファンであることを明かしながらも長嶋さんの動向をいつも追いかけている話に、井上さんの微笑ましさとあたたかさを感じる対談になっています。

いずれの対談も全文が読めるようにファイルにしてあります。来館者の方からは〝ぜひ第2弾も！〟との声もいただき、今後シリーズ化する展示になるかも!? ご期待ください。

Library 児童向け講座

夏休みおしごと体験「図書館司書になろう」を開催しました。

2021年8月7日（土）町内の小学生4人が、図書館で司書体験をしました。本の貸出、返却、棚の整理、本のカバーかけ、自分が選んだ本の紹介展示など、司書の日常業務を体験してもらいました。貸出処理をしてもらった一般のお客様からも「がんばっているわね～」と声をかけていただきやる気100%↑。
本物の司書たちも新鮮な活力をもらいました。

学生と読む百年前の詩の雑誌

岡　英里奈

　米沢女子短期大学に赴任して四年目の春学期が終わった。今年開講した授業では、約百年前に出版された二つの詩雑誌をテキストとして扱った。一九二一（大正一〇）年に創刊された第二次『明星』と、一九二五（大正一四）年に創刊された『詩神』である。

　『明星』は、周知の通り与謝野鉄幹が一九〇〇（明治三三）年に創刊し、与謝野晶子、石川啄木、北原白秋をはじめとした多くの歌人・詩人を輩出した雑誌である。一九一一（明治四一）年に廃刊した第一次に比べ、一九二七（昭和二）年まで刊行された第二次の存在はあまり知られていない（ちなみに鉄幹・晶子の長男・光によって、戦後第三次も刊行されている）。しかし第二次は第二次の特性があり、特に編集後記に表れている晶子の紙や印刷に対するこだわりぶりや、「二重国籍詩人」ヨネ・ノグチこと野口米次郎の日本語詩、中原綾子、深尾須磨子といった女性歌人・詩人たちの活躍が面白い。『詩神』もまた、今では研究者の中でも言及されることの少ない雑誌だが、誌面を紐解くと、室生犀星や高村光太郎といったベテラン勢から、萩原恭次郎や岡本潤、草野心平、春山行夫といった新進気鋭の詩人たちまでもが作品を載せており、派閥にとらわれない〈公器〉としての性格を目指した詩雑誌であった。

　これら二誌のバックナンバーは、数年前、知人から譲り受けたダンボール箱の中に入っていたものである。ご家族の遺品ということであったが、気に入った歌や詩に印がつけてあったり、友人からの葉書きがはさまっていたりと、文学青年だったと思しき持ち主の体温を感じられる姿で残されていた。これを、普段は文庫本や電子書籍で近代文学に触れている学生と読んだら楽しいのではないか、しかも詩雑誌なら小説ばかりでなく詩も扱ってほしいという学生の要望にも応えられる…。こうした思いつきのもとで構想し、コロナ禍の大打撃（調査に行けない！）を受けながらも、何とか先に述べたような概要を掴み、授業の形に整えたのであった。

　先日、全一五回の授業を無事に終えることができた。毎度のことながら、いざ授業をしてみると、こちらが教えるよりも逆に教えてもらったという気持ちが強く残る。特に今回は、詩をはじめとする文芸作品の読み方を改めて学んだように思う。それは、とにかく急がずゆっくりと、進んでは戻りを繰り返し、一文のみならず一語一音にこだわって読むということである。何を当たり前のことをと言われるかもしれないが、授業を通じて、日頃多くの資料や作品を扱ううちにいつの間にか身についていた読み急ぎの癖や、すぐに意味を探ってわかった気になろうとする癖を痛感したのである。例えば萩原朔太郎「竹」に出てくる動詞がなぜすべて連用形なのか、そこに九〇分を使う贅沢こそ、文学研究の醍醐味であり価値である。そのことに改めて気付かされた半年であった。

岡　英里奈（おか　えりな）

米沢女子短期大学准教授

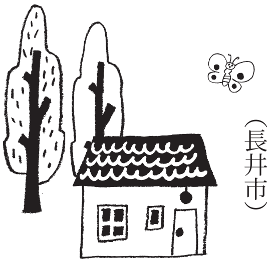
　専門は日本近現代文学。1987年、福井県生まれ。2010年、横浜市立大学国際総合科学部卒業。2012年同大学院都市社会文化研究科博士前期課程を修了し、名古屋大学大学院文学研究科博士課程後期課程に進学。2016年単位取得満期退学。博士（文学）。2018年より米短に赴任。学部から大学院までは島崎藤村の文学、特に歴史小説と紀行文を中心に研究。最近では明治30年前後の「深刻悲惨小説」から水上勉を中心とする戦後の文学、現代女性文学まで、視野と研究領域を拡げるべく奮闘中。昨年10月に出版された紅野謙介・内藤千珠子・成田龍一編『〈戦後文学〉の現在形』（平凡社）では、井上ひさし『吉里吉里人』のページを担当。井上ひさし文学についても勉強中である。

小さな店に行く

小山田　和則

「幸せ」に人一倍執着する四十三歳のオッサンは、本を読みあさり、先人の知恵を拝借し朝の瞑想で迷走する。
ある時ふと思いついた事は、「そうだ・・・買い物の仕方を変えてみよう」
消費行動を変える事で消費意欲を変えてしまおうと。
原因と結果を逆にするイメージ。
上手くは言えないが、漁師さんが山に木を植えるような事だろうか。
例えば、大型店には極力足を運ばないとか。
新品をチェックしても、中古品もしくは修理で対応。買い物時の移動は歩きもしくは自転車で。我が家の食糧自給率を上げる。味噌は味噌屋さんで購入。などなど。
味噌屋さんのお味噌美味しいですよ。
いろいろおまけしてくれたり、今まで知らなかった味噌の話が聞けたりと。
さらば大量消費社会。さらば経済最優先。
生活が少しずつ変わり始め、幸せへの道筋が実感に変わってくる。
そんな緩やかな変化と急がない姿勢が、次第に身体に染み込んで・・・。
なかなか良いじゃない。
それは、僕が幼い時にはそんな事は日常で当たり前の事だったはず。
「私のお気に入り」と問われれば、何かそんな漠然とした事。

（長井市）



やわらかな風

嶋田　伸子

「何をしているときが一番好き？」と昔つきあっていた人に聞かれたとき、私は真剣に「やわらかな風に吹かれているとき」と答えた。怪訝な顔をした彼は、「えっ、そんなこと？」とその後、話題を変えてしまった。良い空気の中にいること、そして風が私を撫でて通り過ぎていくこと、それを感じるときに幸せだな、生きているな、と感じる。
無風ではいけない、けれども穏やかでなくてはいけない。
高校、大学時代、部室に入り浸っていた。
高校時代は放送部、放送劇を作ったり、サテライトスタジオの番組を構成したり、そこには音楽が大好きな先輩や、冗談ばかり言っている同級生たちがいた。夏休みにも部室に通った。大学時代はフォークソングクラブ、やはり音楽が大好きな人たちが部室にたむろし、即興で楽器を合わせたり、歌ったりしていた。今では考えられない暗い地下の一隅、大きな木の楽器箱があった。そこで先輩たちの腕前に驚嘆し、あとは、からかわれたりからかったり。授業をさぼっては部室に通った。
そもそも部室好きは、父譲りではないかと思う。戦後、父は小さな出版社をやっていた。そこには面白そうな大人の人が集まって、こともあろうにトランプで遊んだりしていた、しゃれた会話を楽しみながら。
そんなサロン的な空間が私は今も好きなのだ。なんとかそんな他愛もないけど、人の集まる安全な場所を、やわらかな風の吹く場所を自分でも作ってみたいものだ。

（川西町）

2021年度　これからの催し物案内

川西町新庁舎完成記念
山形交響楽団と松川儒フレンドリークラシック

10月3日(日)　開演 15：00　【会場】ホール《全席指定》
【料金】一般 3,000 円、PLA's 会員 2,500 円、高校生以下 1,000 円

20年以上にわたりフレンドリークリニックを主宰し毎年クラシックコンサートを開催している松川儒（ピアニスト）とオペラ歌手が、山形交響楽団と共演、新庁舎の開庁を祝います。

音楽
被爆ピアノ平和コンサート

10月7日(木)《入場無料》開演 18:00　【会場】ロビー《自由席》
【定員】60人（要予約）

被爆地ヒロシマでよみがえったピアノが全国を巡り、平和コンサートが開催されています。

川西町フレンドリープラザ附属子ども演劇教室２０２１年度　定期公演
演劇
さざわぐち山と仲間の話

10月10日(日)《入場無料》開演 14:00【会場】ホール《自由席》

演劇
グッドピープル

10月23日(土) 開演 14:00　【会場】ホール《全席指定》
【料金】一般 5,000 円、PLA's 会員 4,500 円、青少年席 (U24) 2,000 円

作：デビッド・リンゼイ＝アベアー／演出：鵜山仁／出演：戸田恵子、サヘル・ローズ、木村有里、阿知波悟美、小泉駿也、長谷川初範

音楽
ワンダリングトラベルツアー

10月30日(土) 開演 18:00　【会場】ロビー《自由席》
【料金】一般 3,000 円、小中高生 1,000 円、未就学児無料
【定員】60人（要予約）

<出演>鈴木広志(サクソフォン)、田中庸介(ギター)、小林武文(パーカッション)、千石史子(ソプラノ)

映画
「瞽女 GOZE」上映会

10月31日(日)　①午前の部 10:00〜12:30 ②午後の部 14:00〜16:30（上映時間　1時間51分）
【料金】一般 1,200 円、ペア 2,000 円、小中高生無料《自由席》

瀧澤正治監督の舞台挨拶 & 小関敦子さんによる瞽女歌披露。川西町朴沢でも撮影されました。

プラザの座楽 Vol.13
妖怪を見た男 〜近代建築界の巨人伊東忠太の世界〜

11月7日(日)　開演 14:00〜15:30　【料金】500 円
【講師】庄司　勉（YTS テレビディレクター）
【定員】40人（要予約）

疎開先・川西町で完結した建築調査。忠太が最後にスケッチした建造物とは…『妖怪を見た男』（山形テレビ 2005 年）の上映とトーク

パブロ・シーグレル

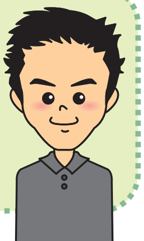
音楽　アストル・ピアソラ生誕 100 周年記念公演
パブロ・シーグレル・ジャズ・タンゴ・アンサンブル

12月4日(土)　開演 15:00　【会場】ホール《全席指定》
【料金】一般 4,000円、PLA's 会員 3,500円、U24(24 歳以下) 2,000円

タンゴの革命児と称されたアストル・ピアソラ。5重奏団最後のピアニスト パブロ・シーグレルが率いるジャズ・タンゴ・アンサンブルのコンサート。
<出演>パブロ・シーグレル（ピアノ）、北村聡（バンドネオン）、西嶋徹（コントラバス）、鬼怒無月（ギター）、ヤヒロトモヒロ（パーカッション）

編集後記

季節は秋。2021年も気づけば残り数ヵ月。今年もさまざまな催しを開催してきました。春からは「昼下りのステージ」シリーズをスタート。誰でも気軽に音楽に親しんでほしいという思いが込められています。夏にはホール・ロビーの複数会場を利用した「朗読まつり」や、数年ぶりの野外劇場での催しとして、「真夏の太鼓ライブ」を開催。その名にふさわしい熱いライブが繰り広げられました。新型コロナウイルス感染が流行する中、プラザでは今できる範囲で、会場の有効活用や新しい試みに挑戦しております。ぜひ、気軽にプラザに来て、楽しんでいっていただければと思います。(米野)



発行：川西町フレンドリープラザ　〒999-0121 山形県東置賜郡川西町上小松 1037-1　TEL 0238-46-3311　FAX 0238-46-3313　URL: https://www.kawanishi-fplaza.com　E-mail: info@kawanishi-fplaza.com
２０２１年９月発行　通巻第７３号　阿部孝夫／栗田政弘／平田和雄／遠藤敦子／小関麗子／鈴木望友／宮田宗一郎／米野哲郎／仁科亜沙子／林俊宏／井上恒　《表紙写真：米野哲郎》